

令和6年度 第3回信州オープンドアスクール創造会議 次第

1	日 時	令和6年6月24日(月) 10時~12時
2	会議システム	オンライン会議システム Zoomを使用
3	開催方式	Z o o mによるオンライン方式
4	ホスト会場	長野県庁8階 教育委員会室
5	接続情報	I D 585 895 8325 / パスコード 0624

1 開会

2 教育次長挨拶

3 議 題 進行：座長

(1) 先行事例から学ぶ

- ・大分県玖珠町立学びの多様化学校
- ・京都市立洛友中学校

(2) その他

4 連 絡

5 閉会

みんなが主役の学校

玖珠町立学びの多様化学校

You are the star!



大分県玖珠町（くすまち）について

人 口 14,061人
世 帯 数 6,579世帯
面 積 286.51 km² 人口密度 50人/km²
児童生徒数 966人

小学校6校 中学校1校（平成31年4月統合）

教職員他配置人員 約150人



0

今年4月 玖珠町立学びの多様化学校が開校しました。

学校に行きづらさを感じる子どもが安心して自分らしくすごせる
新しい公立小中一貫校（義務教育学校） が開校しました。



開校一ヶ月の状況

2024年（令和6年）5月18日 土曜日

「多様化学校」開校1ヵ月

登校率8割超、皆勤の子も

児童がドラムセットをたくのに合わせて演奏する「ジャズの手」多様化学校実行委員会 メンバーら「多様化学校の学びの多様化学校」

【多様化学校】「多様化学校」が、開校から1ヵ月を迎えた。さまざまな事情で学校に通えない不登校の児童・生徒を受け入れる小中一貫校で、義務制では九州初の特別校。登校率は8割を超えて皆勤の子も数人おり、順調な滑り出しとなっている。

初年度は小学生4人、中学生16人で、4月16日に始業。小学生は川遊びをきっかけに、魚や水質について調べる独自の学習を始めた。学校を盛り上げるイベントのアイデアをみんなで出し合っている。児童・生徒の希望者が実現に向けて行動するプロジェクトチームも立ち上げた。夏祭りやミニ運動会などを計画している。

町内外の愛好家で作る「ジャズのまち多様化学校実行委員会」

地域の支援、滑り出し順調

伊東委員長の「多様化学校」は、今月13日、メンバー提供のドラムセットを同校に寄贈した。子どもたちは順番にスティックを握り、リズムを刻んだ。伊東委員長(70)は「すぐに興味を示す子もいてうれし。たいたいで遊んで、楽しみながら音楽を学んでほしい」。

地域の支援を受けながらの「無理や我慢をしない、何な変化はないか、温かく注目を集めていく」と気を緩めない。ほとんども登校してない子どももおり、アプロチャやケアを継続していくこと。

「子どもたちが笑ってくれるか」という当初の不安は薄らいたものの、新たな課題も見えてきた。主に中部を担担する藤永ひとみ教師(60)は「3年生のほとんどが高校進学を考えている。毎日の登校に慣れ、学校を楽しんでもらうと同時に、進路の達成に向けてどう寄り添い、サポートしていくかも考えなくてはいけない」と話した。

(宮家大輔)

子どもの平均登校率は8割程

R5_欠席	(出席)	R6_欠席	(出席)
Aさん	196日 (5日)	⇒	3日 (13日)
Bさん	191日 (6日)	⇒	0日 (16日)
Cさん	187日 (10日)	⇒	4日 (12日)
Dさん	187日 (9日)	⇒	16日 (0日)
Eさん	177日 (18日)	⇒	0日 (16日)
Fさん	163日 (63日)	⇒	4日 (12日)
Gさん	138日 (60日)	⇒	0日 (16日)
Hさん	117日 (82日)	⇒	10日 (6日)

面談での子ども・保護者からの声

子どもが学校が楽しいといつも言っている「休みの日が来るのがイヤだ」というくらい

先生たちがすごく仲が良さそうに楽しくしているのを見るのが好き。安心できる。先生たちに会いたって思う。

学びの多様化学校とは？

【学びの多様化学校（不登校特例校）について】
不登校児童生徒の実態に配慮した特別の教育課程を編成して教育を実施する必要があると認められる場合、文部科学大臣が、学校教育法施行規則に基づき、学校を指定し、特定の学校において教育課程の基準によらずに特別の教育課程を編成して教育を実施することができる。

（例えば...）

- ・ 年間の総授業時間数の減少（750時間程度）
- ・ 体験型学習として校外学習を年4回以上実施

ポイント

1. 教育課程がある **学校** である
（フリースクールや教育支援センターではない）
2. 国の指定を受けて **教育課程を柔軟化** できる
3. 高校進学のための **評定** をつけられる



(参考) 全国の学びの多様化学校の設置状況

「学びの多様化学校(いわゆる不登校特例校)の設置状況(R6)

学校数(35校)

【うち、公立学校21校、私立学校14校】

九州初の公立小中一貫校
(R6設置)。



※沖縄県は地図を拡大していません。

玖珠町の不登校の現状

「不登校児童生徒」とは・・・

何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由によるものを除いたもの（出典：文部科学省調査）

	小学校			中学校			合計
	不登校数	児童数	出現率	不登校数	生徒数	出現率	不登校数
H26	2	796	0.3%	5	417	1.2%	7
H30	3	723	0.4%	14	354	4.0%	17
R 1	6	713	0.8%	25	349	7.2%	31
R 2	2	696	0.3%	27	355	7.6%	29
R 3	2	663	0.3%	33	359	9.2%	35
R 4	6	629	1.0%	41	372	11.0%	47
R5	5	606	0.8%	44	360	12.0%	49

資料（不登校出現率）

R3 大分県 小学校 1.05% 中学校 4.63%
 R2 大分県 小学校 1.23% 中学校 5.68%

全国 小学校 1.30% 中学校 5.00%
 全国 小学校 1.00% 中学校 4.09%

現在の玖珠町における主な不登校支援

わかくさの広場

○不登校児童生徒の学校復帰に向けた指導・支援のための「教育支援センター（適応指導教室）」。子育てに悩みをもつ保護者への教育相談活動も行っている。

○現在、小学生4人、中学生5人程度が利用し、各児童生徒の状況に合わせた支援を行っている。支援スタッフは6人。

○保護者が、学校長を通じて教育委員会に入級申請を行うことで、支援を受けることができる。

○わかくさの広場への登校では、町が運営するスクールバスを利用することができる。



各学校における不登校支援

○各学校にはメンタルケアに対処するスクールカウンセラー（SC）、家庭・学校・福祉等の関係者間との連携、調整を行うスクールソーシャルワーカー（SSW）を配置し、不登校支援を実施している。

○また、情緒障害特別支援教室のほか、いわゆる別室登校や、各児童生徒に合わせた学習支援を行うため、関係者の連絡調整役として、各校校務分掌に教育相談コーディネーターを位置づけている。

○ICTを活用したオンライン授業での対応



- R5. 1.19 総合教育会議(不登校の現状報告)
- R5.7~9月 先進地事例調査、Zoom視察依頼(大和郡山市、太田区、白石市、仙台市など)
- R5. 8.24 **第1回 総合教育審議会(諮問)**
- R5. 8.31 議会全員協議会
 - R5.10. 3 総合教育会議(現状及びアンケート結果)
- R5.10.17 **第2回 総合教育審議会**
- R5.10.30 **第3回 総合教育審議会(答申)**
- R5.11. 1 臨時教育委員会
- R5.11. 7 議会全員協議会(答申及び支援対策説明)
- R5.11.13~16 先進地視察(白石きぼう学園、ろりぽっぷ学園、星槎名古屋中学校、草潤中学校、西濃学園)
- R5.12. 4 議会定例会(学びの多様化学校設置条例案上程) 全員協議会説明
- R5.12. 6 **議会議決**
 - R5.12.18 第一回保護者説明会(リモート)
 - R5.12.26 第二回保護者説明会(リモート)
- R6. 1. 9 第三回保護者説明会(リモート)
- R6. 1.13 オープンスクール(14名参加)、入学申請受付開始
- R6. 2.27 第一回入学者説明
 - R6. 3.14 **文部科学大臣 学びの多様化学校 指定**
- R6. 3.19 第二回入学者説明会
- R6. 4.15 **開校式**
- R6. 4.16 **始業式**



アンケート結果概要

1. アンケートについて

不登校児童生徒の現状・課題を把握し、今後の支援の充実に供するため、不登校児童生徒と保護者38名にアンケート調査を実施した。

○調査期間：

・令和5年9月6日～9月26日

○有効回答数：

・児童生徒（12名、31.6%）、保護者（19名、50%）

2. 特例校に関する質問の結果

Q. 今の学校とは別の場所に、学校に行きづらさを感じている人たちのための新しい学校【特例校】ができるとします。その学校は、たとえばこのようなところです。

- ・自分のペースで個別に教えてもらうことができる
- ・テスト、宿題が少ない。
- ・つらい時は休んだり、半日登校やオンラインで学ぶこともできる。
- ・朝ゆっくり学校に来ることができる。
- ・人数が少ない小さな学校。
- ・クラスや担任が決められていない。
- ・部活や行事への参加が自由。
- ・好きな研究、創作、外遊びなど勉強以外の色々なことができる。
- ・学校のきまり（校則・制服など）が少ない。

このような学校ができたら、通ってみたいと思いますか。

⇒「とてもそう思う」「少しそう思う」を合わせ、児童生徒83.3%、保護者88.2%が通ってみたいと回答。

玖珠町の不登校児童生徒への支援の充実について教育長メッセージ

教職員、関係機関の皆様におかれまして、本町の子どもたち教育の充実・発展のためにそれぞれの立場でご尽力をされていることに、深く感謝いたします。

現在、全国的に不登校児童生徒数が増加しており、令和4年度には約29万9千人と過去最多となったことが発表されています。本町においても、不登校児童生徒はここ数年増加傾向にあり、予断を許さない状況です。

こうした状況を受け、玖珠町教育委員会においては、本年8月に総合教育審議会に「不登校児童生徒への支援の充実」等について諮問し、児童生徒・保護者に対するアンケートによる実態把握、それを踏まえた対応策について議論を行い、10月30日に答申をいただきました。この度、審議会の答申を受けて、玖珠町教育委員会としての対応を示した緊急提言をとりまとめましたのでお知らせいたします。

不登校児童生徒への支援を考える際に、避けなければならないのが、不登校を児童生徒自身・家庭だけの問題と考えると事態を矮小化してしまうことです。不登校は決して個人の問題に留まるものではなく、パンデミックなどにより、世界規模で価値観が変容した今日において、これまでの学校教育のあり方、子ども・家庭を取り巻く社会のあり方を見直すための問題提起と捉えるべきだと思います。

本提言は、こうした観点から、行政、学校、地域社会、各ご家庭、関係機関等が、「オール玖珠」として団結し、すべての子どもが安心して学ぶことができる「誰一人取り残されない学びの保障」を目指すものです。

教職員、関係機関の皆様には、これまでも子どもたちへの献身的な支援をいただき、心より感謝申し上げます。皆様には引き続き変わらぬご対応をお願いするとともに、支援をより一層充実させていくための環境整備に努めてまいります。

玖珠町では、これまでもP3C+A（ピンチをチャンスに、そして、チェンジ・チャレンジからアクション）をキーワードに、教職員・関係機関、地域の皆様と一致団結して、コロナ禍の困難な状況においても、より良い教育の実現を目指してまいりました。この度も、未来を担う子どもたちのための教育を飛躍させるための大きなチャンスと捉えて、共に進んでまいりたいと思っております。

何卒お力添えのほどよろしくお願いいたします。

令和5年11月20日

玖珠町教育委員会教育長
梶原敏明



わたしたちは一人ひとりが「主役」として、
安心して自分らしく過ごせる学校をめざします



みつける

- 一人ひとりが、自分の「すき」や「夢」を見つけ、楽しさを味わいながら、学びに向かっていきます。

つながる

- 一人ひとりが、多様性を認め合い、つながり合って生きていくことを学んでいきます。

ひろげる

- 一人ひとりが、楽しみながら挑戦することで、自分の可能性を最大限にひろげていきます。

玖珠町立学びの多様化学校

令和6年（2024）4月開校

公立義務教育学校（小中一貫校）



1 ゆるやかな通学時間、しなやかな学習スタイル

- 登校時間は9:30
- 自習室や図書室など好きな場所で学習が可。
- オンラインへの切り替えや途中登下校も可。



3 豊かな探究活動で好きを深める

- 得意や興味関心に関し、自分のプロジェクトとして、じっくり取り組み得意を伸ばします。
- チームで世界で起こっている出来事（身近なことから世界のことまで）を学ぶ探究活動を行います。



2 個別の学びで自分のペースで学べる

- 教科の学びは学習進度に合わせて、自分のペースでじっくり学ぶことができます。
- 個別指導を充実させ、一人一人の状況に合わせた「学び直し」を行います。



4 みんなでつくる学校生活

- 3学年1学級の異年齢学級でともに学ぶ
- 学校行事や部活動は子どもの興味・関心に応じて、子どもたち自ら企画・実行をします。
- 服装は自由。校則も子どもたち同士で話し合い、必要なルールを考えます。



9:30	登校
対話	対話
1~3 時間目	教科の学び・ 自学
昼休み	昼休み
4時間目	野遊び
5~6 時間目	探究
VT	ボランティアタイム (掃除)
対話	対話
15:45	下校

対話 対話を通じて自分理解・他者理解

生徒同士がサークル（輪）になり対話し、「他者の考え・感情を尊重すること」「自分の考え・感情を言葉で表現すること」などのソーシャルスキルを育む。



教科の学び・自学

自分のペース・学び方で基礎を学ぶ

教科の学びは学習進度に合わせて、自分のペースでじっくり学ぶことができます。「自学」では校内の自分の落ち着く場所で「苦手」をじっくりと振り返ります。



野遊び 自然から学び創造性・健やかな心身を育む

玖珠町の豊かな自然環境の中で、体を動かし、自然と触れ合うことにより創造性や健やかな心身を育む。



探究 協働し創造する力をプロジェクトを通じて学ぶ

子ども自ら問いを立てて、チームで探究的に学習を進める活動に取り組む。地域の協力を得ながら、世界で起きている出来事（身近なテーマから地球規模のことまで）についてグループで探究する。マイプロジェクトとして自分の夢に向かい興味分野を突き詰める。



対話【新設教科】

9:30	登校
対話	対話
1~3 時間目	教科の学び・ 自学
昼休み	昼休み
4時間目	野遊び
5~6 時間目	探究
VT	ボランティアタイム (掃除)
対話	対話
15:45	下校

対話を通じて自分理解・他者理解

生徒同士がサークル（輪）になり対話し「他者の考え・感情を尊重すること」「自分の考え・感情を言葉で表現すること」などのソーシャルスキルを育む。



教科の学び・自学

9:30	登校
対話	対話
1～3 時間目	教科の学び・ 自学
昼休み	昼休み
4時間目	野遊び
5～6 時間目	探究
VT	ボランティアタイム (掃除)
対話	対話
15:45	下校

自分のペース・学び方で基礎を学ぶ

教科の学びは学習進度に合わせて、自分のペースでじっくり学ぶことができます。「自学」では校内の自分の落ち着く場所で「苦手」をじっくりと振り返ります。



神授業、見放題。
スタディサプリ
スタディサプリなら
4万本以上の神授業が見放題！

まずはアナタの学年を選択！

<p>大学受験生</p> <p>志望校・センター対策から AO・推薦対策まで</p>	<p>高校1・2年生</p> <p>高校の日常学習で 定期テスト対策に効く</p>	<p>中学1～3年生</p> <p>苦手克服し、定期テストで 成績アップを実現</p>	<p>小学4～6年生</p> <p>わかる楽しさの実感で 学習習慣の定着を実現</p>
--	---	---	---

ICT教材の導入で
苦手を振り返りしや
すい環境を整えた。



野遊び【新設科目】

9:30	登校
対話	対話
1～3 時間目	教科の学び・ 自学
昼休み	昼休み
4時間目	野遊び
5～6 時間目	探究
VT	ボランティアタイム (掃除)
対話	対話
15:45	下校

自然から学び創造性・健やかな心身を育む

玖珠町の豊かな自然環境の中で、体を動かし、自然と触れ合うことにより創造性や健やかな心身を育む。



探究【新設科目】

9:30	登校
対話	対話
1～3 時間目	教科の学び・ 自学
昼休み	昼休み
4時間目	野遊び
5～6 時間目	探究
VT	ボランティアタイム (掃除)
対話	対話
15:45	下校

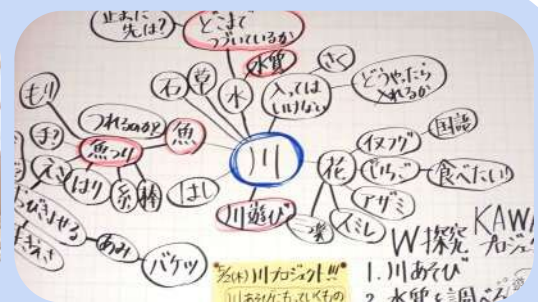
協同し創造する力をプロジェクトを通じて学ぶ

子ども自ら問いを立てて、チームで探究的に学習を進める活動に取り組む。地域の協力を得ながら、世界で起こっている出来事（身近なテーマから地球規模のことまで）についてグループで探究する。マイプロジェクトとして自分の夢に向かい興味分野を突き詰める。

マイ探究



ワールド探究



午前中は個別に合わせた教科の学び、午後は協働的な探究の学び
自分のペースでリズムカルに一日が流れます。

	月	火	水	木	金
9:30~9:45 (15分)	朝対話				
9:50~10:35 (45分)	国語	数学	英語	理科	社会
10:45~11:30 (45分)	社会	理科	数学	英語	国語
11:40~12:25 (45分)	自学				
12:25~13:15 (50分)	昼食・昼休み				
13:15~13:35 (20分)	野遊び	ワールド探究	野遊び	ワールド探究	野遊び
13:45~14:20 (35分)	マイ探究		ワールド探究		マイ探究
14:30~15:05 (35分)	美術	体育	音楽	体育	技術・家庭
15:05~15:15 (10分)	ボランティアタイム (清掃)				
15:20~15:35 (15分)	夕対話				
15:45	バス迎え				

現在、**教育支援センター「わかくさの広場」**（旧片草小学校）が設置されている施設に学びの多様化学校を併設します。

住所：大分県玖珠郡玖珠町森3889

アクセス：豊後森駅より車で約10分

通学手段：スクールバスを登下校時に運行。自転車や送迎も可。



【入学・転学対象者】

- (1) 玖珠町在住の小学校第1学年から中学校第3学年までの児童生徒(※)
- (2) 病気や経済的な理由を除いた年間30日以上欠席若しくは不登校傾向にある又は不登校になるおそれがあると認められる者
- (3) 児童生徒に本校へ登校しようとする意欲があり、保護者の理解も確認できること
- (4) (1)~(3)を満たしている児童生徒のうち、玖珠町教育長が認める者

※ ただし、玖珠町以外の市町村に住所を有する児童生徒が区域外就学を希望する場合、当該児童生徒が住所を有する市町村の教育委員会と玖珠町教育委員会の協議によりこれを認めることができる。

ポイント

1. **玖珠町内※に住民票のある小学生・中学生** の児童生徒
2. **不登校状況もしくは不登校傾向** 等にあること
3. **児童生徒・保護者両方** に入学・転学の意欲があること

※ 玖珠町外からの区域外就学は教育委員会間の協議で認めることができる



児童生徒人数（令和6年4月時点）

中学部			小学部			合計
新中3	新中2	新中1	新小6	新小4	新小3	
8	2	2	2	1	1	16人

（うち町外6名）

【入学・転学対象者】

- (1) 玖珠町在住の小学校第1学年から中学校第3学年までの児童生徒（※）
- (2) 病気や経済的な理由を除いた年間30日以上欠席若しくは不登校傾向にある又は不登校になるおそれがあると認められる者
- (3) 児童生徒に本校へ登校しようとする意欲があり、保護者の理解も確認できること
- (4) (1)~(3)を満たしている児童生徒のうち、玖珠町教育長が認める者

※ ただし、玖珠町以外の市町村に住所を有する児童生徒が区域外就学を希望する場合、当該児童生徒が住所を有する市町村の教育委員会と玖珠町教育委員会の協議によりこれを認めることができる。

3学年が1クラスで学びます（異年齢学級）
担任は1クラスを複数の教員が行います（チーム担任制）

前期課程						後期課程		
第一グループ			第二グループ			第三グループ		
1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
A主任			D主任			G主任		
B教諭			E教諭			H教諭		
C教諭			F教諭			I教諭		



Q. 制服はありますか？ その他、身につけるものの指定はありますか？

A. 服装は基本的に自由です。体育や身体を動かす作業をする授業がありますので、動きやすい服装か着替えを持っていくことをおすすめします。体育の際には室内用の運動靴が必要となりますのでご用意ください（上履きと兼用可です）。

Q. 校則はありますか？

A. 校則は予め設けません。ルールが必要が生じた場合は児童生徒と話し合い必要なルールを一緒に考えます。

Q. 給食はありますか？

A. 給食は当面は行わない予定です。弁当を持参いただくようお願いします。

Q. 学校にいながらオンラインで授業に参加することはできますか？

A. 可能です。授業はオンラインで配信をしますので教室で授業を受けるのが、辛いときは別室からオンラインで参加することができます。

Q. 毎日登校しないといけないのですか？

A. 自分のペースに合わせて登校とオンラインによる家庭学習を組み合わせて通学することができます。

Q. クラブ活動はありますか？

A. ありませんが、以下のような基準で児童生徒自身がクラブを発足して活動することができます。

- ①運営は全て児童生徒が行うこと。
- ②教員が児童生徒の身体の安全を確認できる活動であること。
- ③活動時間は、原則、学校開校日の授業終了から17時までとする。
- ④活動後の下校時には保護者が送迎を行うこと。

既に受け入れた額

870万円 5団体2個人

+ 寄付意思表明 1団体

→学びの多様化学校の
校舎修繕費や備品購入に活用



2024/03/15 大分合同新聞

ボランティアが 開校準備に協力

玖珠の「学びの多様化学校」

【玖珠】さまざまな事情で登校できない子どもを受け入れる玖珠町立の小中一貫校「学びの多様化学校」（不登校特例校）の開校予定地で7日、ボランティアがグラウンド整備など準備作業をした。

町教育委員で、くす星翔


中など3校の教育コーディネーターを務める岩尾純子さん(73)＝塚脇IIの呼びかけで、予定地の旧片草小に約20人が集合。校舎のフェンスに絡まるように伸びた草木を刈り、コケが生えたグラウンドを重機でならした。休校中の日出生小から黒板を運び、校内に設置した。

「意を決して通って来る子どもたちを気持ちよく迎えたい一心。開校後もサポートしていきたい」と岩尾さん。梶原敏明教育長は「教育委員会だけではできない作業で大変ありがたい。大きな期待に応える学校にしていきたい」と話した。

学校は4月の開校を予定している。
(宮家大輔)

開校予定地に茂った草木を刈り、きれいにした＝玖珠町



夜間中学生の“学び”が子供たちに贈る宝物

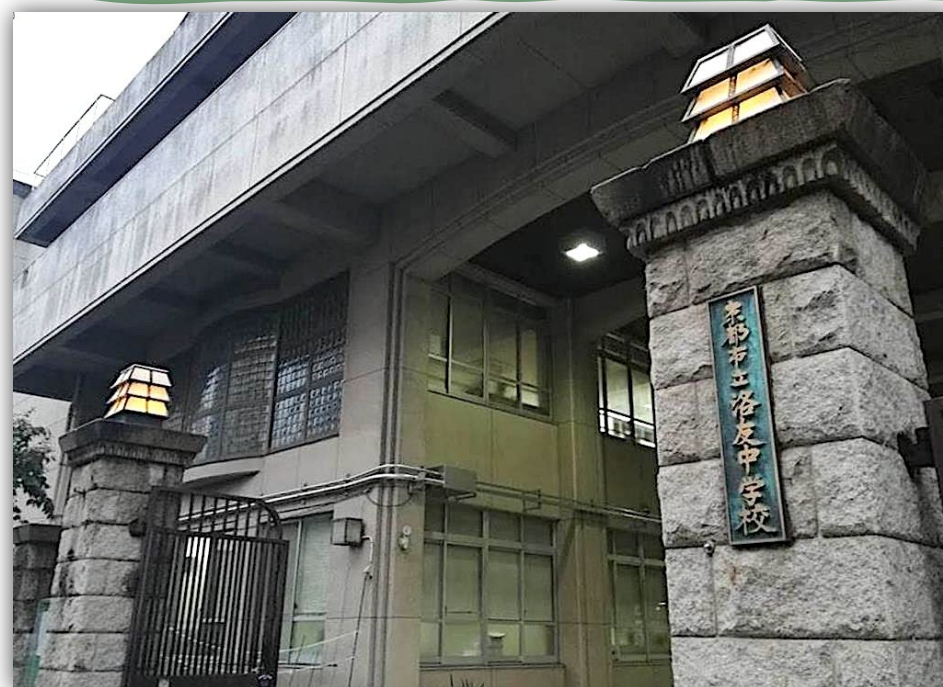
～夜間中学校と学びの多様化学校の可能性を探る～

洛風と洛友の特徴



洛風中学校

- ・ 平成16年開校(全国で2つ目の不登校特例校)
- ・ 定員40名
- ・ 小集団によるグループ活動
- ・ 教育相談総合センター(こどもパトナ)と隣接



洛友中学校

- ・ 平成19年開校
- ・ 定員15名
- ・ 小集団によるグループ活動&個別支援
- ・ 夜間学級との交流

環境整備



支援体制

個別支援



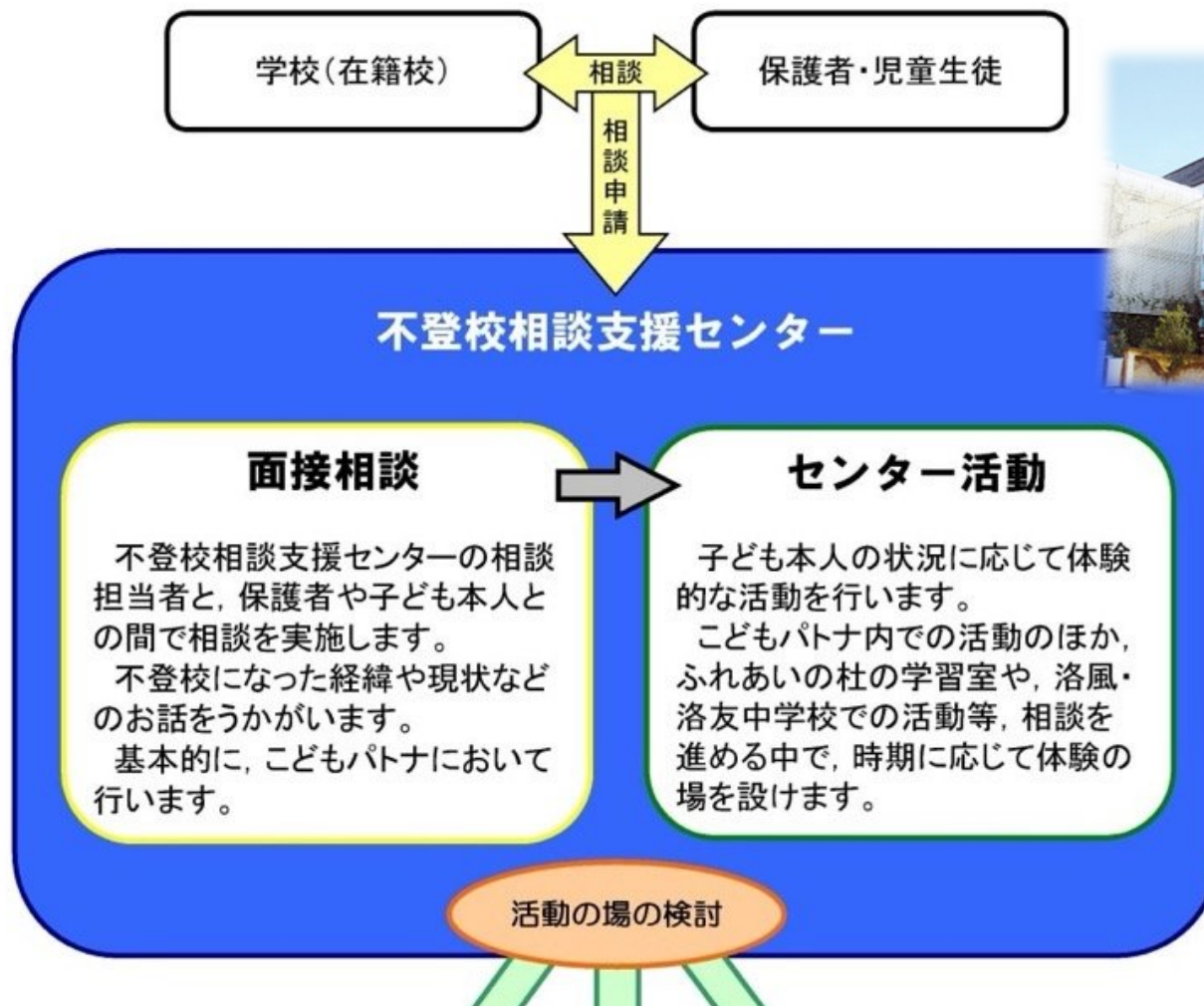
月	総合育成支援員(2), SC
火	洛友パル等(3)
水	洛友パル等(4)
木	総合育成支援員(1)
金	総合育成支援員(1), 洛友パル等(1) SC

カウンセリングルーム



連携関係機関：不登校相談センター、教育相談総合センター、児童相談所、子育て支援センター、病院、介護施設、母子寮、警察、…

入学の手続



不登校になった経緯や現状などのお話をうかがいます。
基本的に、こどもパトナにおいて行います。

ふれあいの杜の学習室や、洛風・洛友中学校での活動等、相談を進める中で、時期に応じて体験の場を設けます。

活動の場の検討

不登校を経験した
子どものための中学校

洛風中学校
洛友中学校(昼間部)

その他の選択肢

区域外就学
在籍校での別室登校
カウンセリング など

教育支援センター
「ふれあいの杜」

北 学習室
西大路御池 学習室
四条大宮 学習室
伏見 学習室
こどもパトナ 学習室



洛友中学校とは…

昼間部生徒と夜間部生徒とが、
世代や国籍を超えてふれあい学び合う全国唯一の学校



洛友中学校は、不登校を経験したがそれを克服しようとする昼間部の生徒と、様々な理由により学齢期に義務教育を果たすことができなかった夜間部(二部学級)の生徒が、世代や国籍を超えてふれあい学び合う全国唯一の学校です。学習内容は、学年にこだわらず、少人数の教室でていねいに学び直すことができます。



【学校教育目標】

生徒と教職員が力を合わせて
学ぶ喜び、わかる楽しさ、そして笑顔あふれる学校に！

授業風景(京都市立洛友中学校)



時間割

校時 クラス	全昼間部 (10分) 13:30~	1校時 (50分)			2校時 (50分)			3校時 (50分)			4校時 (30分)	5校時 (45分)				全夜間部 (35分)	6校時 (45分)				7校時 (45分)			全夜間部 (15分) ~20:40
		1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年		国語	社会	国語	理科		社会	国語	理科	国語	英語	数学	数学	
月	学活	道徳			国語	数学	英語	社会	国語	数学	交流	国語	社会	国語	理科	給食	社会	国語	理科	国語	英語	数学	数学	学活
火	学活	数学	理科	英語	理科	英語	美術	国語	社会	美術	音楽/技家				給食	国語	理科	国語	社会	理科	国語	社会	国語	学活
水	学活	英語	数学	社会	社会	美術	国語	国語	美術	英語	交流	国語	理科	国語	社会	給食	社会	国語	理科	国語	数学	英語	英語	学活
木	学活	理科	国語	数学	英語	社会	国語	数学	英語	理科	体育/美術				給食	理科	国語	社会	国語	国語	社会	国語	理科	学活
金	学活	数学	英語	社会	美術	数学	理科	美術	理科	国語	交流	英語	数学	数学	給食	数学	英語	英語	総合的な学習 の時間			学活		

基本的な考え方① ~生徒指導とカウンセリングの考え方を手がかりに~

- 過去を何とかする学校ではない。
⇒「自分らしさ」を取り戻す学校。
⇒前向きに未来につなげていく学校。
- 一番困っている生徒に焦点を当て、
仲間と共に成長し、よりよく生きる力を引き出していく。
⇒今、困っていること、今、必要なことを一緒に考える。

その生徒の
「諦め」「戸惑い」「躊躇」「怒り」「残念さ」
…など、**声にならない声に向き合う**

- ◎ 自己存在感の感受
学校生活のあらゆる場面で、「一人の人間として大切にされている」という感覚
- ◎ 共感的な人間関係の育成
認め合い・励まし合い・支え合える関係づくり
- ◎ 自己決定の場の提供
自ら考え・選択・決定・発表・制作するなどの体験
- ◎ 安全・安心な風土の醸成
安心して授業や学校生活が送れる風土

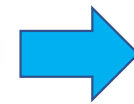


基本的な考え方② ～生徒指導とカウンセリングの考え方を手がかりに～

これまで「不登校」の基本としてきた考え ⇒ 1対0（学校に来るか来ないか）

- ところが…
- ◆休んでいる生徒にも、登校したい気持ちはある。
 - ◆登校している生徒にも、休みたい気持ちはある。

休みたい気持ち …「51」
登校したい気持ち …「49」



登校したい気持ちが
「0」に見える。

- 毎日来ている生徒を良しとしない（逆に心配もする）。
- 自分のペースで来ることが大事。

すべては「受容」と「共感」から

受け入れ、寄り添い、共感することからすべて始まる！

受容

個性、特性を認める
→居場所づくりへ

支援

個性を伸ばす
→自信へ



達成感や充実感が感じられる取組

自尊心

自己有用感

多様性

キーワードは「自尊感情」「自己有用感」「多様性」

自尊感情を高めること

自分自身をかけがえのない存在として認められること。
自分自身を欠点も含めて受け入れられること。

得意技を
活かす

自己有用感を高めること

自分が人の役に立ち、意味ある存在であると感じられること。
活躍の場があり、周りの人から認められていると思えること。

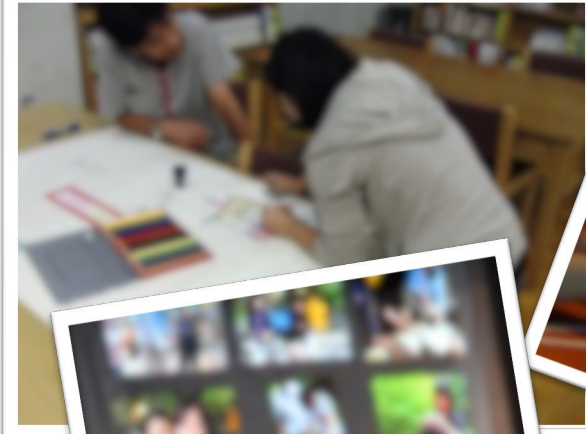
人の役に立つ

多様性の尊重すること

年齢や国籍、性別、障がいの有無など、違いを認め合う中で、互いが助け合い、学びの共同体を形成する中で成長できる。

多文化に触れる
ふれ合い
学び合い

得意技を活かす(文化祭での取組)



人の役に立つ(昼間部と夜間部の交流)



夜間部からのメッセージ



- どうもありがとうございます。日ごろ習ったこと、立派に教えてくれて感謝します。
- 5組のみなさんが助けてくれてありがとうございます。それから、体育の時もいつも相手になってくれて本当にありがとうございます。これからもよろしくね。
- 本当に楽しく教えてもらって、私はうれしく思います。これからもいろいろ教えてね。頑張って私も勉強していきますから、みなさんも頑張ってください。

⋮

多文化に触れる(「切り絵」「チャンゴ」)



ふれあい(STEP, 修学旅行)

S 素敵な
T 友と
E エンジョイ
P ピクニック

修学旅行



学びあい(交流の時間)



茶道



かるた大会



人権カレンダーづくり



人権学習

交流の時間 「若い世代に伝えたいこと」



「戦争は、いちばんダメです」
「洛友中学校に巡り合えて」

近代「日本型学校教育」の行き詰まり

一斉指導は効率をねらった指導

子どもの学びの効率ではなく、**学校運営の費用効率**や**教師による指導の効率**を求め
るなかで編み出され、急速に全国に広まっていった。

もちろん、150年の時を経て今日では一斉指導も大いに改善されているが…

結果的に

同調圧力を生み、子供たちの居場所を狭めることになった。



いじめ・不登校へ

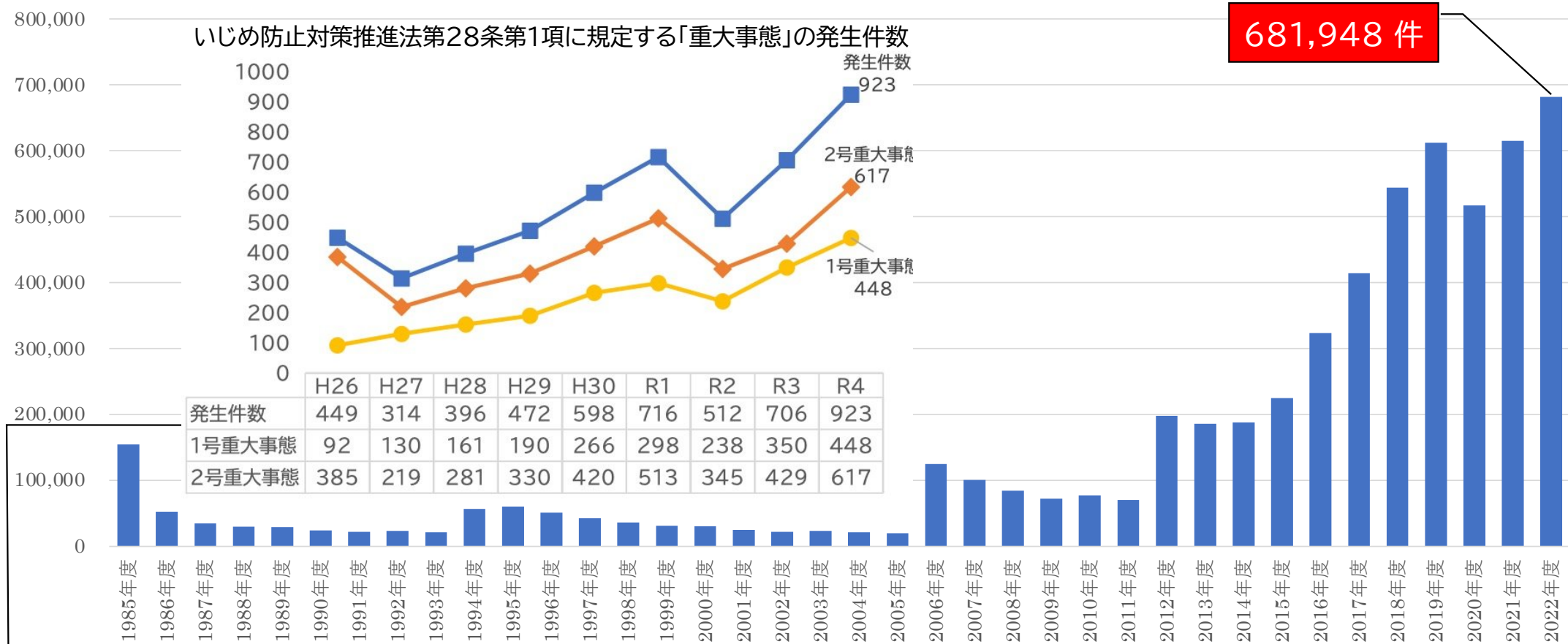
いじめ認知件数の推移(国公立小・中・高・特別支援学校)

いじめ防止対策推進法第28条第1項に規定する「重大事態」の発生件数



681,948 件

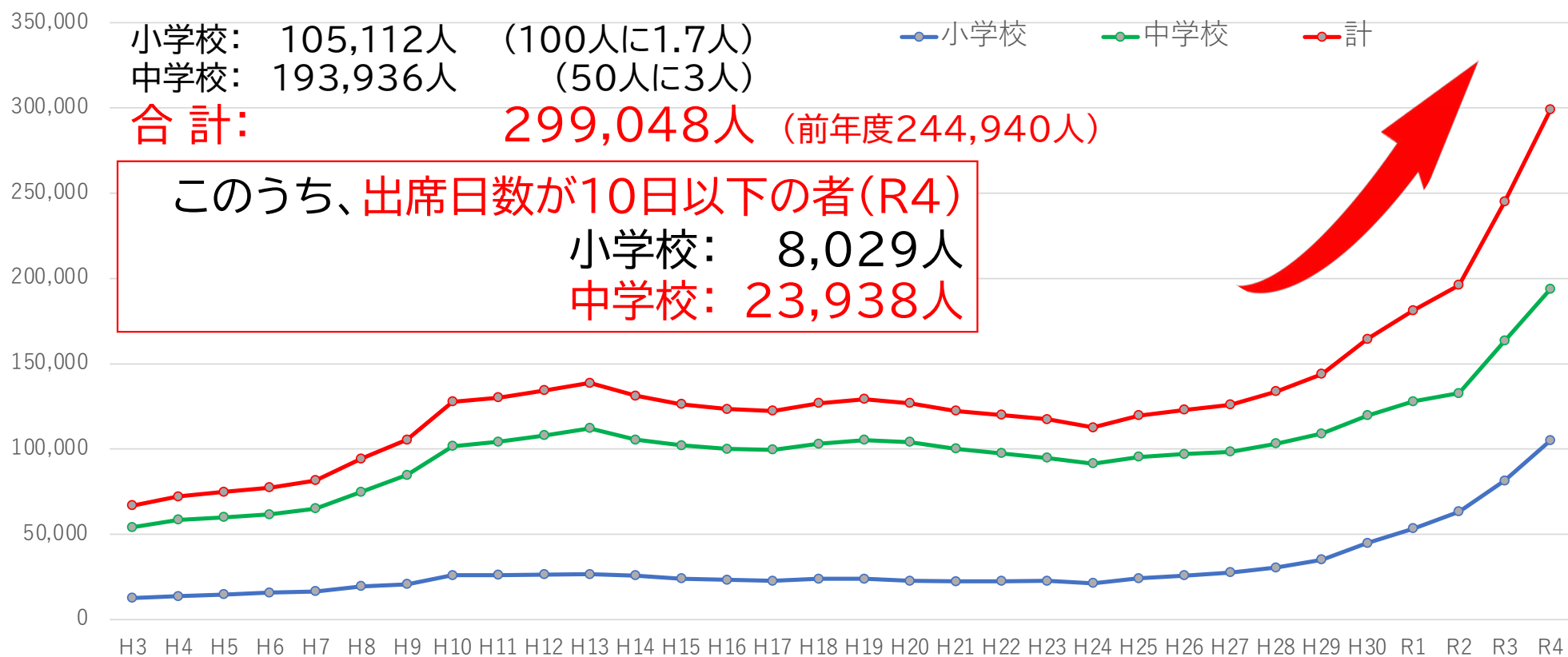
	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
発生件数	449	314	396	472	598	716	512	706	923
1号重大事態	92	130	161	190	266	298	238	350	448
2号重大事態	385	219	281	330	420	513	345	429	617



第1号:いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命, 心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき」
 第2号:いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき」

不登校児童生徒の推移(国公立小・中学校)

不登校の定義:年間30日以上欠席した児童生徒のうち、病気や経済的な理由を除き、「何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にある者」



いじめ・不登校はなぜ減らないのか??

国レベルで対策を行っているにもかかわらず、不登校になる子供たちは増え続け、いじめの重大事態も減少しない。

その大きな原因の一つとして…

家族間関係、世代間ギャップ、
友だち関係…などによって生じる価値観の違い

- 現代の子供たちは多様な関係(価値観)に対応できる力が身につけていない。
- 「多様性をどのように捉え、どう付き合っていくのか」というテーマについて、学校も家庭や地域も社会も答が見えていない中、旧来の同調圧力文化が存在している。

その結果…

ネットでは醜い本音をぶつけ
合っているにもかかわらず…

大人も子供も表面的な付き合い方を好む文化に移行。
空気を読むことの必要性が増えている。

これまでの「日本型学校教育」の課題

これまでの学校教育の構造と特徴

- ① 教員免許をもった教員が一斉授業を行う
- ② 教材は教科書、副教材、自作プリント
- ③ 全員が時間割に沿って学習する
- ④ クラスメイトは同年齢で、ほとんどが日本人（日本育ち）
- ⑤ (厳しい)校則により管理される



一斉・大量生産型
協調性重視

→同調圧力

「みんな違ってみんないい」「個性は大事」と言いながら、「変わった子」「空気の読めない子」は排除される。

「いつも、自分だけ浮いているようだった」

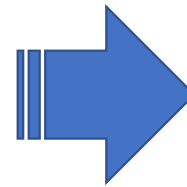
「なぜ、私だけハミられるのかわからなかった」

「一人の悪口をみんなで言っているのが耐えられなかった」

多様性がもたらす「協調原理」を重視した学校のあり方

これまでの学校教育の構造と特徴

- ① 教員免許をもった教員が一斉授業を行う
- ② 教材は教科書、副教材、自作プリント
- ③ 全員が時間割に沿って学習する
- ④ クラスメイトは同年齢で、ほとんどが日本人(日本育ち)
- ⑤ (厳しい)校則により管理される



多様なニーズに応えるべく、
「個別最適な学び」が求められる。



思い切った発想の転換！

- ① 画一的な一斉授業をやめる(教員はファシリテーター役)
- ② ICT教材も活用し、個に応じた教材の開発
- ③ 自分で学習計画を立てる(教員によるサポート)
- ④ 異年齢によるふれ合い・学び合い(障害のある子も共に学ぶ)
- ⑤ 生徒自身による校則の見直し

多様な生徒による「協働的な学び」とは…

多様な生徒による「協働的な学び」へ！

- 画一的な一斉授業をやめる(教員はファシリテーター役)
- ICT教材を活用(サテライト校との交流学习も)
- 登校時間もフレキシブルに

対象生徒

- 義務教育を修了できなかった人(15歳以上)
- 不登校等のためにほとんど学校に通えなかった人(15歳以上)
- 本国やわが国で義務教育を修了していない外国籍の人(15歳以上)
- 学齢期の中学生

夜間中学・学びの多様化学校
(オルタナティブ校)

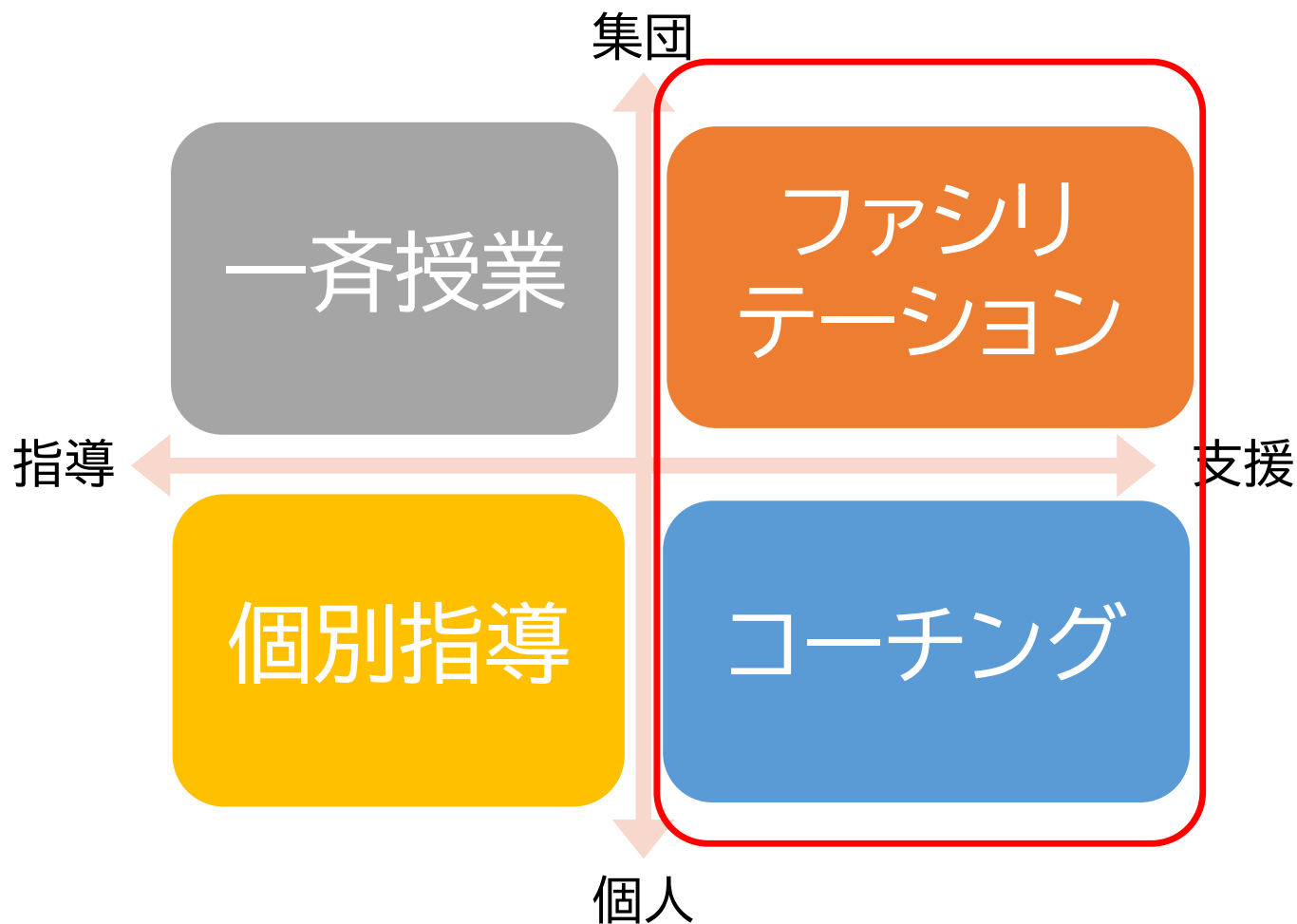
(普遍化)

真の
インクルーシブ教育へ

イメージ

13:00	給食
14:00	サークル活動
15:00	個別学習 <small>(ICT教材も活用 自宅学習も可)</small>
16:00	個別学習 <small>(ICT教材も活用 自宅学習も可)</small>
17:00	個別学習 <small>(ICT教材も活用 自宅学習も可)</small>
18:00	探究活動 <small>(テーマを設定して グループで取り組む 発表して共有)</small>
19:00	給食
20:00	個別学習 <small>(ICT教材も活用 自宅学習も可)</small>
21:00	サークル活動
21:30	

これから求められる教員のスキル



「令和の日本型学校教育」で求められるファシリテーターとしての教員の在り方(大阪樟蔭女子大学 今田晃一氏)

多様な生徒による「協働的な学び」とは…

教育



共育



「勉強 ～意味を考えて～」

みなさんは、自分がなぜ勉強しているのか、本気で考えたことがありますか。「高校に入るため」

「いい会社に入るため」…そんなふうに考えている人もいないでしょうか。私は、考えたことがありませんでした。「勉強



は、しかたがないからやる」「勉強は義務だ」と漠然と感じていたと思います。小学校の友達はどう言いました。「勉強っていうのは、将来豊かな生活を送るための、いわば踏み台のようなものだと思う。だから、我慢して勉強するの」そうか、そういう考え方もあるのか。でも、彼女は、今我慢することで、その見返りが手に入る、と言っている。もう少し別の考え方があるのではないか、と、そのとき私は思いました。これが、私が勉強の意味を考えるきっかけとなりました。それ以後も私は、「義務だ」と感じながら、勉強に取り組んできました。だから、体調がすぐれず、学校に行けないときには、「私はやるべきことをやっていない」と、自分を責める気持ちで苦しくなっていました。

今、私は洛友中学校に通っています。洛友中学校には、私たちが通う昼間部のほかに、夜間部があります。そこでは、様々な事情により学校に通えなかった、三十代から八十代の人たちが学んでいます。その大きな事情という、やはり戦争や差別が挙げられます。外国籍の方もたくさんいらっしゃいます。中には、日本語を話すのが難しいという方もおられます。

私たち昼間部は「交流の時間」に夜間部の生徒さんと一緒に活動したり、授業を受けたりしています。みなさんととても熱心に、楽しそうに学習しておられます。夜間部の生徒さんは、どうしてあんなに楽しそうなのだろう、と私はいつも思っていました。

そんなとき私は、夜間部の生徒さんの文集の中に、こんな言葉を見つけました。「私は、学びたいから学ぶのです。」心の底から学びたい、夜間部の生徒さんにそう思わせた勉強は、ものすごく価値と魅力のあるものに違いない。勉強というものへの考え方が、私の中で大きく変わっていきました。それまでの「勉強は義務だ」という考え方が、ひどく狭いものに思えてきました。私の友達は、「勉強は見返りを求めてするもの」と言いました。しかし、夜間部の生徒さんは、勉強そのものを心の底から楽しんでいる。そこが大きな違いなのだとわかりました。

校長先生の「洛友中学校には学びの原点がある」という言葉の意味も、そのとき理解できた気がしました。勉強は人生においてずっと続くものです。だから、義務ではなく、心の底から学びたいと思える勉強を私もしてみたい。それが見つかったとき、私のほんとうの勉強がスタートします。みなさんは、勉強の意味をどのように考えておられますか。人はなぜ勉強するのだと思いますか。私は、まだ答えにはたどり着いていません。けれど、勉強の意味を本気で考えたことで、私は確実に成長できたと思います。

「洛友中学校という場所」「学びたいから学ぶということば」は、私にとって大切な原点です。これからもっと考えて考えて、納得できる答えを必ず見つけたいと思っています。

「戦争は、いちばんダメです」

私たちは、こどものころ 中国で暮らしていました。戦争が終わったばかりの中国に残され、辛い思いをしました。中国人の養父母に育てられた人が多く、「日本人の子ども」というだけで、十分な教育を受けさせてもらえませんでした。どんなに勉強がしたくても、やりたいことがあってもできませんでした。

戦争をすると、貧乏になります。人が餓死します。昼間は、中国人に見つかるから、隠れていて、夜になってから食べ物を探しました。2、3日食べられない日もあったと、残留婦人の母から聞いたことがあります。もっとひどいこともありました。日本の軍隊の人に、「中国人に殺されるなら自決しろ」と言われ、母親に首を絞められた子どもたちが、たくさんいました。結局、弱い立場にある人が、悲しい思いをして苦勞するのが戦争です。だから戦争は、いちばんダメです。

大人になってから日本に帰ってきました。でも、日本語や生活習慣がわかりません。買い物も、役所での手続きも、病院に行くことも、一人でできませんでした。自分の気持ちをうまく言えなくて、友達もつくれないのはとても寂しいです。「こんにちは」しか言えない自分が悔しいです。洛友中学校に入学したとき、電子辞書を買いました。でも、使い方すらわかりませんでした。

日本語が分からないということは、ほんとうにつらいことです。やさしい日本人もいますが、日本語があまりできないので、「中国人」だという目で見られ、差別されることもあります。中国にいるときは、「日本人」だからと差別され、日本に来たら、「中国人」だからと差別されて、とても嫌な思いをすることがあります。

だから、私たちは勉強します。言葉が通じないと大変です。毎日の生活が楽しくできるよう頑張ります。年をとっても 高校へも行きます。子どものころしたくてもできなかった勉強がんばります。今、日本は、いつでも



勉強できるよい時代です。このよい時代が、ずっと続くように、覚えておきましょう。「戦争」は、いちばんダメです。

「洛友中学校に巡り合えて」

私たちの子どものころは、とても差別と戦争があった厳しい時代でした。思い出すのがつらくて、話したくないという人があるほど、厳しい時代でした。

親と死別して、小さい時から働いていて、学校に通うどころではなかった人や、生活が苦しかったので、学校にも行かせ

てもらえず、弟妹の面倒をみていた人、家に傘がないので、雨が降ると、学校に行けなかった人、学校に行かせてもらえないだけでなく、必要な衣服も用意してもらえなかった人、朝鮮戦争の影響を受けて、落ち着いて勉強できなかった人などがいました。

それぞれ境遇は違いますが、学校に行きたい、勉強したいという思いを持ちながら、できなかった悔しさは同じです。ほんとうに悔しいと思っています。大人になってから、図書館に通い、一人で勉強したりもしました。でも、朝鮮語も、日本語も中途半端で終わっていました。

だからこそ、洛友中学校に巡り合えて、幸せでした。子どものころ、あんなに行きたくても行けなかった学校に通う喜び、字を覚える楽しさ、友達ができた嬉しさ…。

心がどんどん元気になっていきます。家族も応援してくれます。子どもと一緒に勉強して教えてくれることもあります。先生も、明るく迎えてくれます。覚えるのはゆっくりですが、皆さんと一緒に頑張ろうと思います。これからも、よろしくお願ひします。



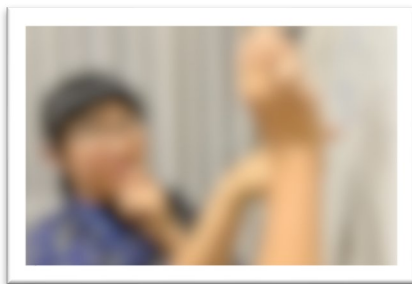
「学ぶことは生きること」(第38回全国中学生人権作文コンテスト内閣大臣賞)

岡山県立岡山操山中学校 2年 小西 珠生(こにし たまき)

目を閉じて想像して欲しい。あなたは日本人で大人だと仮定しよう。家から一步外に出ると、あなたは不安で落ち着かず、自信がなくなる。街を歩くと、目に入る看板や案内の文字が分からず、あれは何を意味しているのだろうと考える。そしてそんなことも分からない自分はクズだと思う。バスに乗っても、「運賃」という漢字や行先を告げる文字が読めず、乗るのが怖くなる。自分はいつも不確かで分からないものに囲まれた世界で生きていると感じる。あなたは、なぜこんなに困っているのだろうか。

私は今年の夏休みに、岡山自主夜間中学へ学習ボランティアとして通った。先ほどの例は実際にここに通われているAさんの話だ。Aさんは幼い頃に大病を患い、小学三年生から不登校となった。中学校もほとんど通わないまま卒業証書だけを受け取った「形式卒業者」である。きつい肉体労働の仕事に就くが病気のために辞めてしまい、その後も職を転々とした。字が読めない、書けない、計算ができないために仕事を選べず、恥ずかしい思いを数え切れないほどしてきたという。

夜間中学校とは、Aさんのように不登校など様々な事情で十分な教育が



受けられないまま中学校を卒業した人、現在不登校の中学生、戦後の混乱期の中で義務教育を修了できなかった人、外国籍の人など多様な背景を持った人々に義務教育を受ける機会を保証するために作られた学校である。現在、全国に公立夜間中学校が八都府県で三十一校、ボランティア団体等が行う自主夜間中学校は十六都道府県で三十七校ある。私がボランティアに通った岡山自主夜間中学には、十代から八十代までの五か国の生徒が約四十人通っている。生徒はみんな私と同じ「中学生」ということだが、教室を見渡すと多様性に富み、世の中には本当に様々な中学生がいるものだと驚いた。

ある日、私は自分の祖母よりも年上であるBさんの分数の勉強を手伝った。ここでは基本的に先生と生徒が対面で勉強する。Bさんは、現役中学生の私がボランティアとして通っていることに驚き、なぜ自分が今になって夜間中学に通っているのか、義務教育を受けなかったために、今までどれほど苦勞して生きてきたのかを話してくださった。そして「珠生ちゃんのように若い時にこんな勉強ができていたら、今頃もっと幸せなのかねえ。」と呟かれた後、驚くべきことばを發した。

「今日習ったことを忘れたくないから、宿題を出してください。」と言われたのだ。私は自分の耳を疑った。宿題は私の天敵である。私が通う中学校では、生徒の意志に関わらず、自動的に宿題が山のように出される。勉強が得意ではない私は、「どうして勉強しなければいけないの? こんな勉強、何の役に立つの?」と学ぶこと自体を否定し、宿題も嫌々していた。だから、Bさんに宿題が欲しいと頼まれたとき、私は自分が恥ずかしくなった。Bさんをはじめ、夜間中学に通う方たちの学びに対する情熱がまっ

すぐでとてもまぶしかった。そして多くの方は、この夜間中学へたどり着くまで「何のために学ぶのか」など考える余裕もないほど、ただ必死で生きてこられたことを思うと、自分がいかに恵まれていて甘えているのかを痛感した。

統計的には、日本の義務教育課程における就学率は約九十九パーセントだ。しかし、全国夜間中学校研究会の推計では、一度も学校に通ったことがない未就学者と小・中学校中退者を合わせると、全国で百数十万人の義務教育未修了者がいるという。その中には複雑な家庭環境を背景に、出生届を出していない無戸籍児、親の虐待、ひきこもりや不登校など、様々な社会の問題が原因で義務教育未修了者となった者もいる。私たちは日本国憲法や教育基本法等で、教育を受ける権利を保障されているはずである。しかし現実には夜間中学で出会った方たちのように十分な教育が受けられず、劣悪な状況に追いやられて生きている人たちがいることを私たちは忘れてはならないと思う。学びを求めている人たちに、もっと「教育の機会」を届けたい。

私が尊敬するマララ・ユスフザイさんの国連でのスピーチが私の背中を押してくれる。

「一人のこども、一人の教師、一冊の本、そして一本のペン。それで世界を変えられます。教育こそがただ一つの解決策です。教育を第一に。」
私は本当に小さなことしかできないが、これからも夜間中学の学習ボランティアの一員として、学びの場を守り、共に学んでいきたい。学ぶことは生きること。私はこの夏、岡山自主夜間中学の皆さんに、学ぶことの意味を教えていただいたと思う。

現
状

- 不登校児童生徒数
 - ・不登校児童数 2,125人・不登校生徒数 3,610人(10年連続増加)
 - (「令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」文部科学省調べ)
- 義務教育未修了者数
 - ・未就学者数 1,336人
 - ・最終卒業学校が小学校の者 17,150人
 - (「令和2年国勢調査」総務省統計局)
- 県内に在住する外国人の数
 - ・41,536人(過去最高)
 - (外国人住民統計 R5.12末現在)

今
後
の
方
向
性

- 様々な事情で学校に行かなくなった児童生徒の学びの場や居場所となる**新たな選択肢を創りたい**
- 中学校形式卒業生や中学校未就学者の**学び直しを支えたい**
- 日本の中学校にあたる教育を十分に受けていない外国籍又は外国由来の方の**学びのニーズに応えたい**



県教育委員会は

- ・各市町村が、**学びの多様化学校、夜間中学、学びの多様化学校と夜間中学の併設校など新たな学びの場を設置することを促進する**
- ・それらの場において、**多様な学びのニーズに対応し、柔軟で質の高い学びが実現できるよう、市町村の取組を後押しする**
- ・それぞれの取組を広く横展開し、**県内すべての学校における誰一人取り残さない学びの実現を目指す**

対
応
方
針

学びの多様化学校は

- ◆年間総授業時間数の低減
(例：標準1,015時間⇒770時間前後)
- ◆1時間あたりの授業時間を短縮
- ◆複数教科を統合した特色ある教科の新設や教科の組み換えが可能
- ◆習熟度別に、個別の学習スピードや学習量に応じて学ぶ
- ◆個々のスモールステップを評価

夜間中学は

- ◆年間総授業時間数が700時間程度
(1日4時間×175日)
- ◆通常の中学と同じ9教科を学習するが、学齢経過者の特別の教育課程編成が可能
- ◆日本語指導が必要な方のための日本語習得クラスの設置もあり
- ◆個々の事情により修業年限は様々
- ◆中学卒業資格が得られる

併設校は

- ◆学齢期の生徒と学齢経過者が共に学ぶ
- ◆学齢経過者が昼間に学んだり、学齢期の生徒が夜間に学んだり学習者による時間選択が可能
- ◆学びの多様化学校と夜間中学のそれぞれの良さを最大限活かした学校づくりが可能
- ◆併設の特性を活かした学校間連携が可能



こんな学校で学びたい

- ・きまりをみんなで決める
- ・時間割がない
- ・好きな場所で学べる
- ・自分の学びたいことを選択して学べる
- ・子どもが先生を選べる
-

こんな場所になってほしい

- ・様々な人やカルチャーの交流ができる
- ・孤立を防ぎ、他者とゆるやかに繋がれる
- ・地域の方が自由に出入りし、交流できる
- ・学校へ行けない子の居場所になる
-

さらに充実した学びの場にするためには

- ・NPO、フリースクール等との協働による体制構築やノウハウの共有が必要
- ・設置や運営に係る財源確保策を検討
-

目
指
す
姿

新たなチャレンジにより「新たな学びの場」を創造